

登録制度改革の方向性とJFA Passport推進

2023/7/11

Japan Football Association



1. 登録制度改革（2026年以降）の方向性について

2. JFA Passportアプリの選手層への導入促進について

「JFAの約束2050」の達成

2050年までにサッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーを1000万人にする

JFA/FAなどが行う事業展開
＝日常のサッカー環境

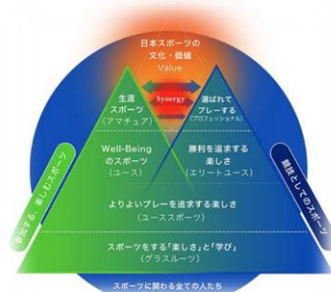
普及
事業

ゲーム
環境

だれもがサッカーをはじめ楽しみ続ける環境

Japan's Wayで示す
方向性

- ✓ 「競技力の向上」と「ウェルビーイング」
- ✓ 能力に応じてサッカーができる環境
- ✓ みんなのサッカー・多様性 etc



さらなる指導・ゲーム環境改善

未登録者含めた個人との直接的な繋がり／途切れないサッカーとの関与／ゲーム環境に合った登録制度

JAPAN'S Wayで示された未来への方向性を下支えする登録制度へ

課題認識：サッカーをよりみんなのものへ／普及に向けた課題

はじめ、続けるための要素

身近にサッカーをする環境がある

自分に合った選択肢を選べる

試合でチャレンジする機会がある

理想と現状課題の一例

- サッカーを楽しむ多くの選択肢
 - 社会の変化（人口減、部活動など）
 - 女子サッカーの選択肢
 - グラウンド不足 など
- 自分に合った環境の選択
 - クラブ・チームを選びやすい仕組みづくり
 - 移籍しやすい仕組み・運用
 - 部活動・学年の垣根を越えたサッカー環境
- 継続的に楽しめる環境の提供
 - 学校の最高学年以外の世代のゲーム環境
 - さまざまな目的・目標のチームとゲーム環境
 - 学校以外の選択肢

制度・ゲーム環境の考え方

＜ゲーム環境として＞

- ◆ U13、U16などのリーグ戦
- ◆ 多様なゲーム環境（上につながる大会、そうではない大会など）
- ◆ 大会への柔軟な出場資格の検討（特に女子）

＜登録制度として＞

- ◆ 性別や年齢にとられないチームづくり（種別を超えた活動の許容）
- ◆ 選手登録・移籍の主体性向上
- ◆ 制度としてのクラブの位置づけ

目指すもの：メンバーシップと登録制度の概観

従来の登録選手と、それだけでない
サッカーファミリー個人との
つながりを創出する

競技会をとりまく“チーム選手・指導者・審判員”

登録の枠組みを時代にあったものに
適宜見直し、サッカーを楽しむ人が
もれなく競技に参加できる状態をつくる

クラブ

登録制度

登録チーム

大会に
エントリー

登録指導者

チームに
参加

チーム組成
チーム組成

公式戦

選手

クラブに
加入する

登録選手

特定のチームに
所属する選手

登録審判員

チームやクラブを離れても
サッカーに関わり続ける

サッカーに
興味をもってもらおう
接点をもってもらおう

練習

練習試合

特定のチームに所属しない
趣味でサッカーをする人

メンバーシップ

JFAパスポートアプリ等を通じてあらゆるサッカーファミリー個人とつながること
サッカーを愛する仲間（サッカーファミリー）が1,000万人になる

登録制度改革の主要ポイント（2026年度以降の運用開始を想定）

1. 選手一人ひとりと協会がつながり、選手の登録認知・帰属意識、移籍時の主体性を向上させる

具体的な
変更案

① 登録選手全員がJFA-IDを保有し選手個人も協会に登録している状態をつくる

登録選手本人の主体性を確保するため、また選手個人の情報を管理する観点で、個人とのつながりを持つことは必須であり、つながりを支点にさまざまな機能やサービスにもつなげることができる

**② 選手本人が移籍のための申請を可能とする
また移籍ごとに発生していた登録料の徴収を見直す**

選手が移籍する際、元チームの代表者の登録抹消作業が必須となっている点や、移籍毎に都度登録料を請求する運用を見直すことで、より移籍を主体的に自由におこなう環境を整備する

2. 「クラブ」をベースとしたより柔軟な「登録チーム」編成を可能にする

具体的な
変更案

③ 登録チームの上位概念として「クラブ」を制度・システム上で位置づける

サッカーがさらに世の中に定着していくためには、その受け皿となるクラブの存在は非常に重要であり、現行限定的に運用されているクラブ申請制度を発展的に制度・システムに落とし込む

④ 年齢・性別・国籍・種別・競技区分など、クラブ内での柔軟な「登録チーム」編成を可能にする

部活動の社会体育への移行など、現代社会で様々なチームのあり方や連盟・競技会のあり方が検討されていく中、登録をするチームはより柔軟な編成を可能とする制度とする

※ 登録料徴収体系については、上記の他、9地域・47FAへの補助金のあり方も含めた改革とする想定

制度改革の主要ポイント概要

① 登録選手全員がJFA-IDを保有し選手個人も協会に登録している状態をつくる

検討の目的

選手一人ひとりとの
つながりを持つ

検討案と実施事項

登録選手全員がJFA-IDを取得している状態にする

- 制度改革に先立ち、2023年度より、登録選手の**JFA-IDの取得**と**選手登録番号の紐づけ**を実施（2026年度より義務化）
- 2026年以降は、選手登録はJFA-IDをもって行うことを想定

（上記したJFA-IDで本人とつながっていることを前提として）

登録の認知・帰属意
識の獲得をする

チーム・選手登録が申請された時点で、選手本人にも通知を行う

- 登録選手に登録情報（都道府県、登録チーム名など）を通知
- 情報の取り扱いに関する規約などを確実に本人にお届けする

制度改革の主要ポイント概要

② 選手本人が移籍のための申請を可能とする。また移籍ごとに発生していた登録料の徴収を見直す

検討の目的

移籍をしたい本人の
意思を阻まない

検討案と実施事項

選手本人による移籍の申請を可能にする

- チームによる抹消申請を前提としつつ、移籍希望の選手本人によるシステム上での申請を可能に
- チームが対応しない場合、協会は元チーム登録から抹消させることができる

移籍ごとに発生して
いる登録料の見直し

移籍時に、同質の登録料を繰り返し徴収することを見直す

- JFA選手登録料は、移籍をしても、徴収は年度ごとに1度とすることを検討
- 移籍時のFA登録料は、所属FAが変わらない場合は徴収せず、所属FAをまたぐ場合、発生する形を検討

制度改革の主要ポイント概要

③ 登録チームの上位概念として「クラブ」を制度・システム上で位置づける

検討の目的 選手の活動の場として「クラブ」の存在は重要であり、協会として正式に位置づける
選手が自分にあった活動の場を選ぶことができることをサポートする

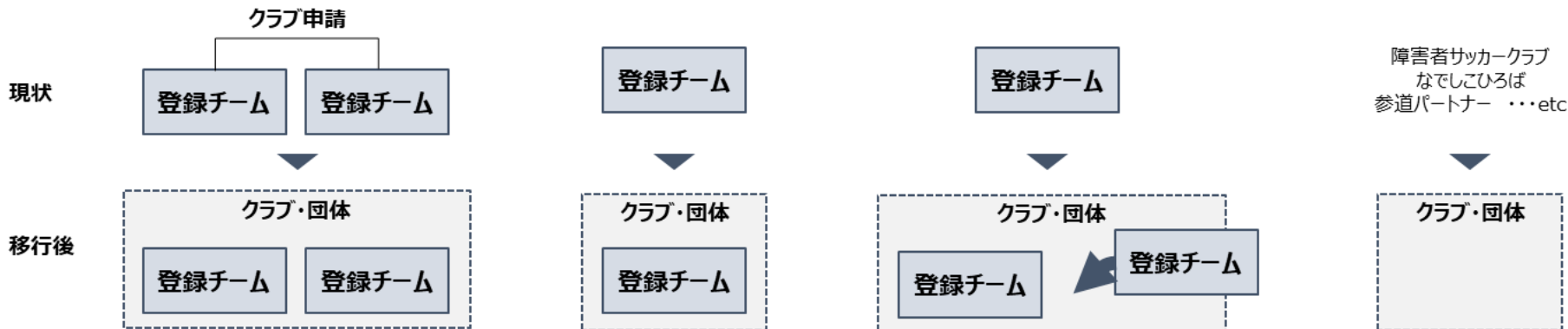
検討案 登録チームを内包する存在として「クラブ・団体」を位置づけ、そこに所属する個人とのつながりも持つ
選手等の個人は、JFA Passport等で「クラブ・団体」を検索し、エントリーできるようにする

■クラブ申請制度を活用しているチーム

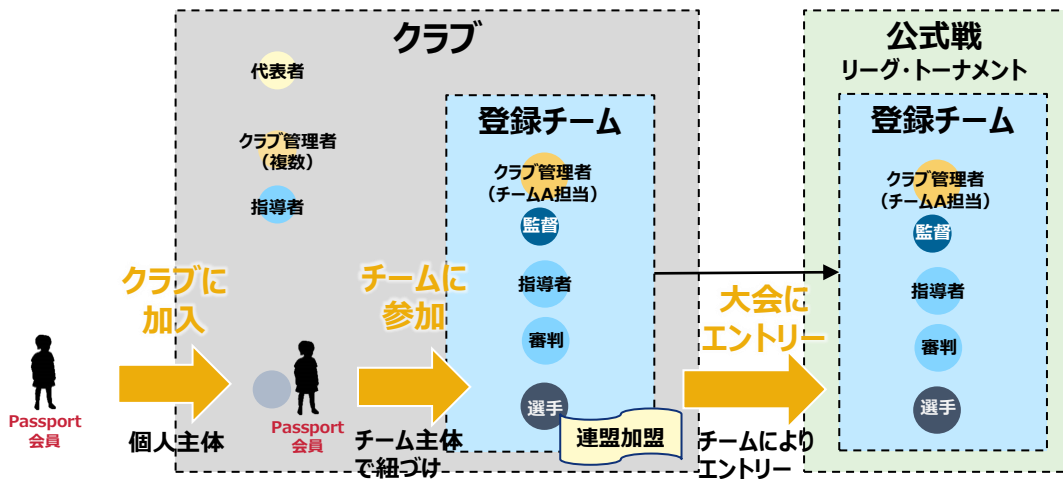
■単独の登録チーム

■クラブ申請をしていなかったが
実態はひとつの同一団体内の複数チーム

■登録チームとしての活動はないが、
サッカーをする場を提供している団体



(参考) 「クラブ」導入後の選手・クラブ・チーム・大会エントリーの基本構造



「クラブ」の権利と義務 (検討中)

権利	登録チームの組成・登録申請
義務	代表者・クラブ管理者等の登録 各種規定の遵守 (懲罰対象範囲検討) クラブウェルフェアオフィサー設置 等

「登録チーム」の権利と義務 (検討中)

権利	都道府県FAの施策への関与 競技会への参加
義務	登録料の納付 選手の登録 代表者、審判、監督の登録 各種期待の遵守 等

個人の「クラブ」への登録 (メンバーシップ領域)

- JFA-IDを取得した個人が誰でも加入可能
- 選手としてだけでなく様々な人がクラブへの紐付けが可能

クラブ内での「登録チーム」の組成・紐づけ (JFA/FAの年度ごとの登録領域)

- クラブは、年度毎にJFA-ID取得の個人を、競技会に出場する「登録選手」として紐づけ、「登録チーム」を組成 (競技会向けの性別・国籍・プロアマ区分などの情報付加)
- 組成した「登録チーム」は競技会出場のベースに (連盟に所属する場合は連盟ルールに従いチーム組成)

公式戦へのエントリー/大会エントリー (競技会ごとに管理する競技会領域)

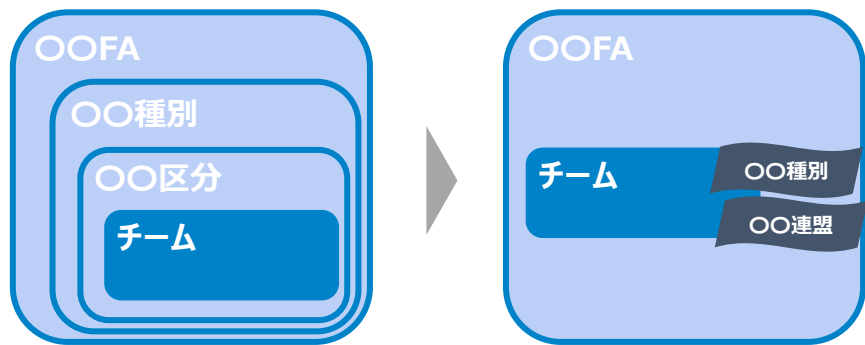
- 「登録チーム」に編成された「登録選手」をベースに大会エントリー
- 各競技会で有効な情報

制度改革の主要ポイント概要

④ 年齢・性別・国籍・種別・競技区分など、クラブ内での柔軟な「登録チーム」編成を可能にする

検討の目的 クラブ内では、より柔軟な「登録チーム」組成を可能にし、登録しにくい・できない選手・チームをなくす

検討案 種別区分ごとの登録ではなく、種別（競技会のカテゴリ）や連盟の情報は各チームに付帯する情報とする



登録チームを編成する時点で、年齢や性別など編成する選手に制約がある

制度改革の背景・ポイント

- 👉 **部活動のあり方の変化**
部活動の地域移行が検討される中、全国で様々な形態のチーム・クラブが生まれる可能性を考慮
- 👉 **種別の年齢上限を超えた選手の引退**
現行の種別の年齢を超えた選手が、当該チームにとどまることができない状況を考慮
- 👉 **1種とシニアの垣根**
1種とシニアの年齢の垣根を超えたチームや競技会の運用に課題